

令和3・4年に植栽した施行地の状況について

胆振総合振興局森林室 森林整備課

胆振東部地震森林再生実施計画の進捗状況（道有林）

胆振東部地震では、被災3町（厚真町・安平町・むかわ町）において4,293haの森林が崩壊。この崩壊の内、約43%の1,882ha（安平町390ha・厚真町1,117ha・むかわ町375ha）が道有林内での被害。道有林では、「胆振東部地震森林再生実施計画」に基づき、令和4年度から令和8年度までの5カ年に集中的に林内路網の整備や被害木整理・植栽を実施。

種別	令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計		進捗率
	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	実績	
林業専用道、林道等維持	25,837	27,244	23,100	22,000	15,300	15,300	101,537	27,244	26.8%

種別	令和4年度		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計		進捗率
	計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	実績	
被害木整理	35	36	36	36	37	35	179	36	20.1%
植栽	76	75	78	75	76	74	379	75	19.8%

令和3年度植栽箇所（道有林）

植栽箇所：安平町 道有林胆振管理区 1 1 4 林班 6 5 小班

植栽年：令和3年 春植、樹種：カラムツ1号苗、植栽本数：11,500本、面積：7.18ha



令和3年度植栽箇所（道有林）

植栽① 堆積地【土壤評価 良】（土壤硬度 4mm、透水性 良、傾斜角度 9°）



被災状況（撮影年月日:令和2年12月3日）



植栽完了状況（撮影年月日:令和3年6月11日）

令和3年度植栽箇所（道有林）

植栽① 植栽状況 堆積地【土壌評価 良】（土壌硬度 4mm、透水性 良、傾斜角度 9°）



植栽完了状況（撮影年月日:令和3年6月11日）



現況（撮影年月日:令和5年7月19日）

- ・植栽から2年経過し草本類の侵入が見られることから、令和6年度に下刈を検討。
- ・植栽当時の苗長は60cm、現在の苗長は66cmと全体的に上への成長がなく盆栽形状であり、その要因の一つとしてエゾシカによる枝葉の食害が考えられる。
- ・植栽木の活着率は概ね9割。

令和3年度植栽箇所（道有林）

植栽② 崩壊地【土壤評価 良】（土壤硬度 10mm、透水性 中、傾斜角度 30°）



- ・ 降雨や融雪時に表層の浸食が発生している。
- ・ 草本類の侵入は見られない。



植栽完了状況（撮影年月日:令和3年6月9日）



現況（撮影年月日:令和5年7月19日）

令和3年度植栽箇所（道有林）

植栽② 植栽状況 崩壊地【土壌評価 良】（土壌硬度 10mm、透水性 中、傾斜角度 30°）



現況（撮影年月日:令和5年7月19日）



山腹上部 苗長 47cm



山腹中・下部 苗長 83cm

- ・ 山腹中・下部に比べて上部の成長が悪く、急斜面による影響が斜めに生育している。
- ・ 降雨や融雪時に表層の浸食が発生し、部分的に植栽木の流出を確認。
- ・ 堆積地の植栽木と同様全体的に上への成長がなく盆栽形状であり、その要因の一つとしてエゾシカによる枝葉の食害が考えられる。
- ・ 植栽木の活着率は概ね7割。

令和4年度植栽箇所（道有林）

植栽箇所及び天然更新状況

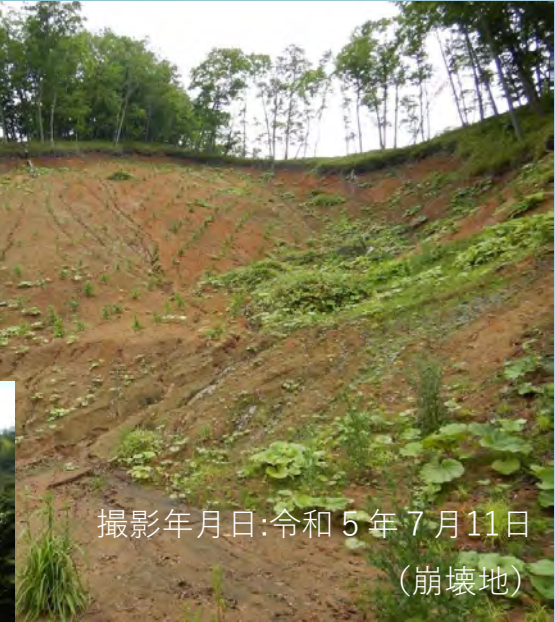
撮影年月日:令和5年5月25日
(堆積地)



撮影年月日:令和4年9月8日
(崩壊地内の天然更新)



撮影年月日:令和5年7月11日
(崩壊地)



○堆積地

土壌評価 良、土壌硬度 5mm、透水性 良、
傾斜角度 8°

○崩壊地

土壌評価 良、土壌硬度 11mm、透水性 良、
傾斜角度 27°

- ・降雨や融雪時に表層の浸食が発生し、部分的に植栽木の流出を確認。
- ・現時点においてエゾシカによる枝葉の食害は見られない。
- ・堆積地及び崩壊地の活着率は概ね9割。
- ・崩壊地内でカラマツ等の天然更新を確認。

今後の取組内容

【植栽後のモニタリング調査】

地理・地形等の諸条件により植栽木の生育不良や部分的に消失している箇所が見受けられるため、活着調査を継続的に実施し、被害原因の究明と対策を検討する。

【植栽＋補完的（筋工・播種など）な手法の検討】

崩壊斜面において植栽木の生育が不良であり、その原因は、降雨や融雪時に表層の浸食が発生し、植栽木の定着を阻害しているためだと考えられる。このため、崩壊斜面箇所において植栽と補完的手法（筋工・播種など）により、植栽木の良好な生育と植生の侵入・定着の手法を検討する。

【実施計画の見直し】

森林造成計画地において、カラマツ等の天然更新木の発生により、植栽による森林造成を必要としない箇所や、山間奥地になるほど溪流幅が狭いなどで植栽に適さない箇所が見受けられることから、現計画の見直しについて検討する。